

1997年度幹事報告

庶務幹事この一年

姫路工業大学理学部 坂井 信彦

私は放射光学会の庶務幹事の重さをわきまえずに、なりゆきに委せて一年を過ごしてきたと反省しております。

庶務幹事の役割は総会や評議員会ではそれなりの業務を司りますが、それ以外は会長の方針に則った会計、行事、編集、渉外各幹事の活動への気配りといったあたりが役どころと心得て、とにかく事務局をよく理解すること（正確には西野さんの意見をよく聞くこと）が大切と認識する一年間でした。

それでも学会のことを時に考えておきますと、次のような疑問が脳裏をよぎります。いまそれぞれの放射光実験施設にはたとえば利用者懇談会が組織されて学会会員もそこへ会費を払っています。この会費は日本放射光学会の会員からすると二重払いではないのかと思うのです。放射光学会は会員の研究活動に決定的な使命を負っている各共同利用放射光施設の運営に関心を寄せ、学会の立場から発言し

協力をする義務があると思うのです。会員から見ればいま利用者懇談会が行っているかなりの役割は学会がすべきことの肩代わりなのです。利用者懇談会会員の要望は放射光学会会員としての要望そのもの（活発な成果のある研究をしたい！）ではないのでしょうか。学会がその要望を受けて立つならば、学会の会費を払っている会員は懇談会の会費を払う必要はないということになりませんか。（まだ論理に無理がある？）さらに話を展開させれば、各利用者懇談会は学会の複数の部局組織という構成でよいのでは、と思えてきます。とりあえず「放射光学会員は各種利用者懇談会の会費を払わなくてよい」という法則は成り立ちませんか？

はて庶務幹事として不謹慎なことを申したようにも思いますのでこの辺で。

1997年度幹事報告

行事幹事この一年

日本原子力研究所 水木 純一郎

2回目の行事幹事ですが、全く前回の経験が生かされている様子も無く困ったものです。歳を取るにつれて何となく雑用？ も多くなり、行事幹事に徹する時間が少なくなってきたのをすまなく思う今日この頃です。

今年度は、放射光学会が共催した国際学会のSRI '97があり、さらにそれに引き続き第3回目のアジアフォーラムをJASRIと共同で開催したこともあり学会独自の講習会等を持ったわけでも無いのに慌ただしい1年でありました。現在、来年のイベントのために案を練っているところであります。いい案があれば教えてください。

さて、行事そのものには関係はありませんが、この1年幹事をやらせていただいて感じたことは、会長をはじめ各幹事の方々、学会事務局の方々とのチームワークが非常にいいことです。よそ行きの話ではなくざっくばらんに討論し、時には酒を飲みながら学会の運営のことを議論したこともありました。特に今年は、以前からの懸案でありました合同シンポジウムの会計をどうするか、すなわち、こ

れまでのように行事特別勘定の中に入れてアンタッチャブルのままにするのか、あるいは一般会計に組み入れて学会活動として有効利用するのか、が幹事会等で時間をかけて議論されました。この問題に関しては、今年度の会計幹事（山本 樹氏）の綿密な調査があって、学会と事務局との間でかわされている契約内容、それに基づく学会と（有）ワズとのあるべき関係を知ることができました。この結果、契約と実態とが大きく違っていることを知らされ、学会の“甘え”の構造が浮き彫りにされたように思います（勿論、私見ではありますが）。出来るだけ早い時期に結論を出すべきでしょう*。

この記事が学会誌に掲載される時は、1月9日からSPRING-8で開催される（た）合同シンポジウムが終わっていますが、原稿を書いている今はそろそろネジを巻いて準備を進めようとしています。ここ播磨科学公園都市は、まだまだ名前が先行している都市？ で、（いいように言えば）自然が溢れています。いざ合同シンポジウムのよう

な300-400名規模のイベントを計画すると宿泊施設、足の確保の件で悩まされます。多くの参加者は、姫路に泊まることを想定して相生からのバスの臨時便、また会場とSPring-8間を結ぶバスの臨時便を出してもらうように計画していますが、これがうまくいったかは皆さんがこの記事を読まれるときには結果が出ていることでしょう。合同シンポジウムは、また数年後にSPring-8の順番がまわっ

てくることと思いますが、そのとき迄には上のような問題は過去の懐かしい思い出となっていることを願っています。

* これについては、1月の学会総会において一般会計に組み込まれることが報告された。

1997年度幹事報告

編集幹事この一年

東京大学物性研究所 神谷 幸秀

瞬間に一年が過ぎ去ろうとしておりますが、この一年を振り返ってみますと、前年同様、事務局、編集委員、執筆者の方々などのご支援なくしては、編集幹事を曲がりなりにでも努めることは不可能であったと改めて感じております。また、今更ながら、会誌発行に直接携わっている事務局の方々のご努力がどんなにたいへんなものであるかを痛感させられた一年でもありました。先日、開かれた今期最期の編集委員会では、事務局の西野さんから、「ニコニコ」しているとたしなめられましたが、引き続き、毎号々々会誌を発行していく皆様のご苦勞を思うと、「ニコニコ」すべきは一人になったときと反省しております。

さて、この期では、いささか難産であった「MR放射光利用」の特集号を第2号として無事、発行することができました。執筆者並びに関係者の方々に深くお礼申し上げます。また、8月上旬に開催されました、国際会議SRI

'97とサテライト会議についても「研究会報告」として、時期を逸することなく、第5号に掲載することができました。これもひとえに執筆を快く引き受けてくださいました執筆者の方々、また熱意をもって原稿催促をしてくださいました編集委員と事務局のご努力の賜と感謝いたしております。なお、このSRI'97の特集号が近々、発行される予定です。

来期は、パワフルな尾嶋新編集幹事のもと、会誌もA4判化され、装いも新たに会誌の編集・発行がなされることになっておりますので、ご期待ください。

最後に、編集幹事という貴重な経験をする機会を与えてくださいました学会と、非力な編集幹事を強力にご支援くださいました事務局並びに編集委員の方々に、心からお礼を申し上げます。また、学会と会誌の益々の発展と若い世代のさらなる飛躍を祈って……中年の兵は去るのみ。

1997年度幹事報告

渉外幹事この一年

分子科学研究所 宇理須 恒雄

渉外幹事を引き受けないと言われてから、あっという間に一年がたってしまいました。20年近く企業にいましたが、管理運営面の仕事の経験は少なく、専ら研究ばかりに従事してきましたし、また、分子研での日常も、土曜も日曜も無いような毎日でしたので、きちんと、責任を果たせるか不安でした。しかし、前任者が、親切な庭野さんでしたので、困ったら助けて頂けるだろうと思って、お引

き受けしました。最初の仕事は、放射光学会から、日本学術会議の会員の候補者を推薦し、また、これに付随して推薦人を選出することでした。これまで、ほとんど無縁であった学術会議のことで、まるっきり要領を得ず、上坪先生ほか、他の幹事および西野さんなどの助言のお陰で、どうかとりまとめられました。この時、放射光学会が弱小学会であることをはじめて認識しました。今のところ、放射

光学会から委員を推薦しても選出される可能性はほとんどないそうです。しかし、日本学術会議結晶研究連絡委員会の委員を放射光学会から出して欲しいという依頼が舞い込み、結果的には高エネルギー加速器研究機構の松下先生に委員になっていただけることになりました。放射光学会からのこの種の委員としては、以前安藤先生が物理学研究連絡委員会の委員をなされたとの事ですが、日本学術会議と放射光学会の直接のパイプとして重要な役目をお願いする

ことになるわけです。弱小学会ですが、一步一步成長しているのも実感しました。e-mail すら苦手な私が学会のホームページの編集のお手伝いもすることになりました。分子研の浅香修二さんの協力と事務局の方々の努力のお陰でこの問題も解決できました。色々と学ぶことの方が多く、貢献することが少なかったように思われます。協力して下さいました方々に心より御礼申しあげます。

1997年度幹事報告

会計幹事この一年

高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所 山本 樹

我が日本放射光学会は、'97年には発足以来10周年という節目を迎えました。こういう大事な年ではありますが、学会の財政状態は必ずしも良好というわけには参りませんでした [このことは '97年1月の総会における予算案審議の際にも指摘したことで、ご記憶の会員も多いと思います]。会計担当としては、まず学会財政を黒字基調に戻す努力が必要と考え、一般会計財源の増収のために会費徴集の徹底と賛助会員の増加、また支出削減のためにネットワーク維持委託の取りやめと会誌印刷数の縮小等を検討し、実行致しました。これらの方策のそれなりの成果については会誌本号の '97年決算・'98年予算報告から読みとれることと思いますが、これは上坪会長以下幹事団の全面的な協力と学会事務局の積極的な努力によって可能になったことであります。

さて上記方策の検討過程で、これまで常に献身的に我々の学会を支えてきてくれた学会事務局に対する事務経費支払いの健全化が緊急課題となっていることが判明して参りました。財政削減を標榜する会計幹事としては大変心苦しいことではありますが、学会としてさらに一段階の発展を期するために事務局体制の整備が必要と考え、ほぼ一年を

かけてこの問題の調査・幹事会における検討を行って参りました。昨年末の評議員会・本年1月の総会において、新しい支出項目を作り適切な経費支払いを行うことを認めていただきました。

また、話は前後しますが、昨年は文部省科学研究費補助金の交付を得て実現したSRI '97の主権に見られるように、本学会の重要性が認識された年でありました。現執行部はこのことに力を得て、年会・合同シンポにおいて財政責任を負うべき唯一の組織としての学会の重要性をより高めることによって学会活動の活性化を図りたいと考えました。財政面では、年会・合同シンポ剰余金を特別勘定としない学会会計処理の一本化が不可欠であるとの結論に至り、これも長年懸案となっていた行事特別勘定と併せて一般会計に繰り込むべきだとの提案を致しました。幸いにも、昨年末の評議員会の賛同を得て本年1月の総会において提案通りの決議を頂くことができました。

任期は残り一年となりましたが、上坪会長の指揮下、財政の安定化と学会活動の活性化に努めて参りたいと思しますのでよろしく願いいたします。